

門川市長ごあいさつ

改めまして、皆さんこんにちは。京都市長の門川大作です。

お礼とお祝いを申し上げます。

まず、この若者提案に607名もの人が応募いただき、うれしいなと思いました。最近の若い方々が白けている、政治や行政に関心を失っているということが言われますけれど、決してそうではない。本当に意欲ある素晴らしい御提案をいただき、じっくり読ませていただきました。素晴らしい提案です。これから始まる未来の担い手・若者会議U35の中で十分に生かしていただけたらと思います。同時に、皆さんお一人お一人が、自分の提案を提案しっ放しではなく、実現に向けた意思表示をされていることが素晴らしい。これからそれぞれの立場で努力をお願いしたいなど、そんなことを感じています。

読ませていただいて改めて実感しますが、若者らしい斬新さ、柔軟さ、新鮮さと同時に、皆さん京都が好きだな、この大好きな京都をもっともっと良くしていきたい、そんな熱い気持ちを持っていただいていることが、本当にうれしく思います。

そうした思いをこれからの新基本計画を策定していく活動、また、それぞれの地域での、職場での、大学での活動に、より多くの仲間との輪を広げていただいて、頑張ってくださいことを期待しています。本当におめでとうございます。607名の代表だと思っています。嬉しく思います。

次に、次期京都市基本計画の策定についてお話します。

10年後の京都について、皆様と一緒にしっかりとした夢を描きたい、構想を打ち立てたい、そう思います。現実を見ますと、1年先がどうなるか極めて厳しい、せめて10年先を読んで仕事をしたいと私自身のマニフェストでも考えました。しかし、この1年間で100年に1度と言われる米国発の金融危機、経済危機、あるいは国の形が大きく変わっていくといった激動の時代に10年先どころか1年先が読めないとそんな感じも致します。

しかし、それではだめです。そこでお互いに夢を、目標を徹底して議論して共有し、それを具体的な政策に落とし込んでいく。そして、市民の方に分かりやすく提案し、同時に多くの市民の方々からもっともっと意見をいただいく。私は、市民の皆さんと課題意識を共有すること、そしてそれを使命感や、あるいは環境問題等は危機感も共有してともに行動し、共に汗をかく、そういうことが大事ではないかな、そのためにもしっかりと議論を重ねて、現状認識の上に立った、でっかい夢を描くことが大事ではないかなと思います。

100年に1度の金融危機、経済危機と言われていています。現実には、80年前、昭和4年、1929年にウォール街から世界恐慌が起こりました。その当時、京都市民がどういうことをしたか。歴史を紐解くと、京都市は、観光課を

昭和5年に創設しています。今につながる観光行政のスタートは、100年に1度の金融危機、経済危機の時に行われています。あるいは京都駅の観光案内所、これは昭和2年に作っていますが、昭和5年に立派に改築しています。更には、東山、北山、鴨川周辺を初めて風致地区に指定しています。昭和5年と申しますと、京都も景気が悪いため、鞍馬の火祭が中止になっているような厳しい時です。今につながる京都の観光行政のスタートは昭和恐慌、景観行政の土台づくりも100年に1度の金融恐慌の中でした。

10年後と言わず、100年後の京都市民が、100年後の世界の人々が、さすが素晴らしい計画を立てて実行していただいたなど、そんなことを感じていただける、これをすることが、京都人の遺伝子ではないか、そのDNAは皆さんに伝わっている。共々に頑張りたいとそう思います。よろしく願います。

いよいよ今日、次期の基本計画を作るための「未来の担い手・若者会議U35」が発足します。松山さんに議長をお願いしました。素晴らしい人であります。そして、皆で議長を盛り上げ、同時に一丸となって取り組んで欲しいな、このように思います。

また、京都市が基本計画を作るに当たり、そもそも基本計画とは何だろう、地域主権時代と言いながら、147万京都市民がいて北から伏見まで事情が違うなか、京都市の基本計画を作るとはどういうことか、基本計画がいかにかに在るべきかを、「未来の京都創造研究会」という、京都の素晴らしい若手の大学の先生達が共に議論する会から答申をいただきました。地域主権時代の基本計画とは、そもそもいかにかにあるべきか、まだ読んでいただけていない方は読んでいただきたいと思えます。

京都市役所で若手の意欲ある人を公募しました。そして応募していただいた方に、未来の京都創造研究会へ参画していただきました。その代表も「未来の担い手・若者会議U35」に入らせていただいています。大いに市民ぐるみで、若者の皆さんの胸を借りて、次期基本計画の基軸を作って欲しいなと思っています。

ここで、敢えて言わずもがなですけれども、3点お願いしたいと思えます。

第1点は「徹底して未来志向」で議論していただきたい。

目先のことを見れば、あるいは過去を振り替えれば、本当に暗くなるニュースがいっぱいです。しかし、徹底してプラス思考で、未来志向で議論して欲しい、そのように思います。

2点目です。若者の特権であります、大いにはみ出した議論をお願いしたい。

何を言っている、現実を見て欲しい、そんなことを私たちが言い、ある意味ではかさぶたになるかもしれません。そのかさぶたを打ち破っていただいたときに、素晴らしい提案をしていただければ、素晴らしい基本計画になります。

皆様が社会の中核として活躍される、そんな時をイメージしながら、あるいは100年後をイメージしながら、大いにはみ出して欲しい。小さく固まっていたら必要はないと思います。大いに、人が思い付かないようなことを一生懸命、寝ても覚めても考えていただき、独創的な提案をお願いしたい。

同時に、そうした提案をしながらメンバー全員で冷徹な目で、覚めた目で議論をする。そして徹底して実現可能性についても議論していただきたい。しかし、最初から実現可能性ばかりを考えるのなら、これだけの素晴らしいメンバーに集まっていたら必要はありません。大いにはみ出して、大いに大風呂敷を広げ、そして覚めた目で、冷徹な目で議論し、実現可能性にも配慮して骨太の提案をお願いしたいなとそう思います。

3つめは、この議論の中で大いに皆さんが学んで欲しい。

私はよく「人間浴」という言葉を使います。人間は、日光浴、森林浴、海水浴など、自然の中で学び、成長し、元気をいただき、また癒される。同時に人間と人間との力の浴びあいの中で元気をいただき、あるいは新たな発想をいただき、あるいは癒されるということがあります。大いに学んでいただきたい。

そして未来の担い手・若者会議U35に参加していただいたことが京都の未来にとっても、また、お一人ひとりの未来にとってもかけがえのないものになる、そんな機会にしていきたい、そのように思います。

こんな言葉を聞きました。後藤新平さんというお医者さんで、台湾総督府民政長官であった人の言葉で、「日本の歴史に50ページ書いていただくより、世界の歴史に1ページ書いていただくことをしろ」。この後藤新平さんという人も大風呂敷と呼ばれた人です。

私は姉妹都市50周年でボストンに行ってきました。本日御出席いただいている笹岡隆甫さんにも一緒に行っていただきました。ボストンに行って、毎日京都の文化に触れてきました。いかに京都の文化がアメリカで賞賛されているか、価値のあるかということを感じました。

去年はパリとの50周年でした。パリでもそうでした、ジャポニズム、あるいはクールジャパン、日本人が思っている以上に世界で京都に伝わる日本の文化が評価されています。世界の京都だなということを改めて実感しました。その世界の京都の10年間の基本計画を作っていただく、その責任も大いに感じていただき、大いなる御活躍をお願いしたいと思います。楽しみにしています。よろしく申し上げます。